



学校通信

みやこ町立犀川中学校 校長 飯田恵文

令和3年6月4日 No.3



犀川中学校いじめ防止基本方針



犀川中学校いじめ防止基本方針は、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号、国の基本方針、最終改定平成29年）福岡県いじめ防止基本方針をもとに犀川中学校のすべての生徒が安心して、充実した学校生活を送れるよういじめ防止を目的として策定しました。いじめの定義といじめに対する基本的な考え方は下記のとおりです。

【いじめの定義】

いじめとは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等該当児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものを言います。

【いじめに対する基本的な考え方】

いじめ問題に迅速かつ組織的に対応するために、いじめに対する認識を全教職員で共有します。いじめに対する基本姿勢としては、「いじめは人間として絶対に許されない」という強い認識の下、「どの学校、どの子にも起こりうる」という危機意識を持つことが重要であり、いじめが発見された時は、「いじめられている子を最後まで守り抜く」という強い信念で対応しなければなりません。全ての児童生徒を対象にいじめに向かわせないための未然防止、早期発見、早期対応を行います。けんかやふざけ合いでも被害者の「心身の苦痛」に着目し、組織的に対応します。

【いじめの早期発見への取組】

- ・いじめに特化したアンケートの月1回の実施
- ・いじめに特化した無記名アンケートの学期に1回、年3回の実施
- ・教育相談週間の設定（学期に1回）
- ・相談ポストの設置及び活用
- ・「家庭用チェックリスト」や「家庭向けリーフレット」を活用し、家庭と連携した早期発見の取組
- ・SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)等の専門家を活用した事例研究等の研修会の取組
- ・学校生活・環境多面的調査等の積極的な活用等

2学年紹介



生徒数:48名(男子26名・女子22名)

2年1組の目指すもの【 切磋琢磨～競い合え 高め合え～ 】

2年2組の目指すもの【 整理・整頓・挨拶 】



本年度の重点目標

- ① 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、主体的・対話的で深い学びの実現を図ること。
- ② 道徳教育や体験活動等を生かした総合的な学習の時間を充実し、豊かな心の育成に努めること。
- ③ 食育推進及び体力向上に関する指導等を通して健やかな体づくりに努めること。

① については必ず1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して実現されます。例えば、主体的な学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定します。対話によって自分の考えなどを広げたり、深めたりします。そして、学びの深まりをつくりだすために生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかといった観点で授業を進めています。

学習に必要な個別の知識については、教師が生徒の学びへの興味を高めつつしっかりと教授します。深い理解を伴う知識の習得につなげていくために生徒がもつ知識を活用して思考することにより、知識を相互に関連付けてより深く理解します。

上記の内容を踏まえて「教えて考えさせる授業」(東京大学大学院教授 市川伸一)の授業スタイルによる授業研究を通して授業力を高めています。

教師の説明→理解確認→理解深化→自己評価の4段階の授業構成です。



お知らせ

緊急事態宣言の延長のため6月に予定していた3年生の修学旅行(1泊2日鹿児島)は中止としました。生徒にとっては残念なことですが、感染リスクを考えた判断をしました。



6月行事予定



1	火	中間考査(学・社・理・英)、農業体験(1年) 交通安全指導 7:50(PTA)
2	水	衣替夏服完全移行、教育相談① 図書司書来校
3	木	教育相談②、(放)拡大執行委員会
4	金	教育相談③、3年定着度テスト (放)専門委員会、小関 SC 来校
5	土	
6	日	
7	月	教育相談④、ALT 来校
8	火	教育相談⑤、ALT 来校、(放)学習委員会
9	水	ALT、図書司書来校
10	木	
11	金	小関 SC 来校
12	土	
13	日	
14	月	期末考査試験範囲表配布
15	火	県学力調査(1,2年)、期末計画表作成
16	水	図書司書来校
17	木	教育相談、ALT、図書司書来校
18	金	教育実習終了、小関 SC 来校
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	公開授業、図書司書来校
24	木	(放)専門委員会
25	金	部活中止、小関 SC 来校
26	土	
27	日	
28	月	期末考査(学・英・美・国)
29	火	期末考査(学・音・社・理)
30	水	期末考査(学・技家・保体・数)、生徒集会



ラストシーズンの 福岡が輝く理由

スポーツ心理学博士の布施努さん(57)は米ノースカロライナ大学院で学び、神奈川・桐蔭学園高ラグビー部などを指導する。大学生が最終学年で急成長する例は多いといい、それを「4年生効果」と表現する。「期限が決まれば、人は最大の能力を出しやすい。自分が何をすべきか見積もりやすくなる」時間がたくさんあれば色々なことに力を使いたくなるが、限られた時間なら「できないことははっきり捨てられる。福岡選手はその見極めがうまいのでは」。かつて福岡はこんなことを話していた。「僕、グータラですよ。オフは朝までゲームをすることも。そんな自分を分かっているから、目標を決めて、やらなきゃいけない状況を作っている」この目標設定において大切なのは「CS バランス」と布施さん。Cはチャレンジ(目的)。Sはスキル(パフォーマンス)。今の自分と目標の距離が遠すぎても近すぎてもいけない。「今できる小さな目標を設定し、例えば2週間ごとにハードルを一つずつクリアする。医学部合格がゴールなら、そこに少しずつ近づいていると実感できることが大事」。そのバランス感覚も、福岡は絶妙なのだと布施さんはみる。」

4月に順天堂大医学部に入学し、二つの道を両立する福岡を「特別」と感じる人は少なくないだろう。しかし、布施さんは「二つの目標を持つことが互いにいい影響を与えた」とみる。

ラグビーがうまくても、直接、勉強には生きない。でも、どうすれば上手になるか「仮説」を立て、失敗した時のデータを抽出して仮説を立て直すというプロセスを確立できれば、それは勉強やビジネスなどに応用できる。失敗しても、すぐ理由を突き止めて改善する術が身についているからだ。「そこで目標が二つあれば、互いの課題を重ね、うまく言葉に変換できるようになる。言語化できると、汎用性が生まれる。だから私は運動部の学生たちにしっかり勉強するように勧めている」

福岡は準決勝の後、「チームにとっても僕にとっても最後の試合。とにかく悔いが残らないよう、全てを出し切りたい」と話した。日本最高のWTBの最後の走りを、目に焼き付けたい。

引用文献 朝日新聞 2021年5月22日(土)

意識から習慣へ



学力問題の核心は、「子どもの意欲をどう高めるか」とい「意識」の問題ではなく、「子どもたちの習慣づけをどうはかるか」という「行動」レベルの問題である。また、「意欲」は、個人に内在するものではなく、「環境」とのかかわりで生じるものである。重要なのは、「意欲」に直接はたらきかけるのではなく、「習慣」づけを通して、あらたな「意欲」をかきたてること。適切な家庭環境のもとで、子どもたちの確かな学習意欲が形成され、豊富な学習意欲が引き出され、そして、着実な学力の基礎が築かれる。

引用文献 『学力を育てる』(志水宏吉/著、岩波新書)

意欲からではなく、まずは習慣付けることが大切ということが書かれています。勉強をする環境づくりを学校全体でつくりあげることが必要です。勉強をせざるを得ない環境(枠組)を学校で知恵を振り絞って創り上げたいと考えています。